

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100021		
法人名	スクー 株式会社		
事業所名	スマートホーム・パティオ		
所在地	釜石市小佐野町2丁目3番39号		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391100021-00&Pr_ofCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年9月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ建物1階に小規模多機能型居宅介護事業所が併設しており、職員は兼任している。入居者も自由に行き来しており、合同でレクリエーションや外出等の活動も行っている。日々の実践・経験や内・外の研修等を通じて、事業所全体及び職員個々の技術・技能や資質の向上を目指しているところですが、スタッフの不足等周辺環境含め千変万化の業務のなかでも、そこに笑顔と思いを絶やさぬよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、商店やスーパー、小学校、住宅などに囲まれた市街地に立地し、近接する消防署の助言、指導を得るとともに、高齢者のサークル団体や幼稚園児の訪問を受けるほか、町内会の行事への参加や地域住民との日常的な交流を行い、地域と連携した利用者への介護サービスを提供している。また、併設する小規模多機能事業所と連携を図り、各種行事の共同開催や大型入浴施設の利用、小規模介護事業所の利用者との交流を促進し、効果的な運営を行なっている。更に、介護職員の資質の向上に向け、計画的な研修計画を立て、テーマにより職員を講師とし、共に学ぶ体制を構築しているほか、職員の資格取得に向け、受験対象者への助言など、積極的に働きかけを行っている。また、資格取得者への手当ての支給や定期昇給の実現、職員の待遇改善に努めるなど、職員の勤労意欲の向上と、介護サービスのよりよい提供を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は立上げ職員皆で作り上げ、毎朝のミーティングでの呼称とホール掲示により共有しながら実践につなげている。また新入職員オリエンテーションでの説明度に皆で再確認している。	理念は、事業所開設時に行政の指導のもと、職員の話し合いにより定め、ミーティングなどで確認し、趣旨の徹底を図り、理念に基づいたサービスの提供を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会会員となっている。道路整備に伴う近隣住宅の解体、移転が続いており、当所駐車場を転出住民等の所用に開放し、井戸端会議的な交流の場となっている。	町内会の行事への参加や大正琴、フラダンスなどの慰問を受けるほか、幼稚園児の来訪により、利用者との交流を図っている。更に事業所の駐車場を近隣の住民に提供しているほか、地域住民による事業所周辺の草取りが行なわれるなど、地域との連携が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の見学が開設以来続いており、また運営推進会議等通じて、認知症介護支援の実際を発信し、理解の一助となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の小規模多機能型と合同で定期開催しているが、昨年度からの当会議活用小規模外部評価において、当事業も合わせて現状理解を得、ご意見頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議への利用者や家族の出席を得て、希望や意見を伺うほか、地区代表者の提案、行政から2名の参加を得て、助言・指導を頂いている。今後、事業所の行事や運営状況などを屋外掲示などにより、地域への情報発信を検討することとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当課へのほぼ毎週の事務連絡から協力関係が継続され、また気難しい隣家独居障害問題ケースの道路整備移転に伴う包括支援に関わり、連携している。	事業所ごとの情報ボックスが市の担当課に設置されており、毎週、市に出向いている。その際に、各種指導や助言などを得ている。そのほか、仮設住宅の入居者や各種福祉施設の利用希望待機者など、行政の課題についても相談を受け、対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書におけるサービス内容にて身体拘束を行わない旨具体的に盛っており、月例開催の職場研修でも毎年度テーマに取上げて取り組んでいる。	身体拘束については、年間研修計画の中に取り組み、職員を講師として共に研鑽を深めている。特にスピーチロックについては、事業所の設置者の指導や家族の来訪時の態度などを受け止め、利用者本位の対応に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の区分、定義や事例を学び、見過ごすことのないように留意しており、職場研修でも毎年取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が成年後見人養成研修を受講済みで、独居であった利用者等には普段から必要性の検討に留意し、職場研修でも取組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の解消には必要な分時間を掛けて、またご理解頂ければ改めて何度も説明の上、納得頂いてから契約であったり改定の同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会等を通じて意見・要望を承り、スタッフ間で話し合いながら施設運営に反映させている。運営推進会議に利用者及び家族の参加を得、また遠方家族とは電話やお便りでやり取りしている。	広報紙に日頃の生活情報を掲載し、家族に送付し、意見や提案を受けているほか、家族の来訪時や医療機関訪問の際に、意向を伺っている。家族が遠隔地に居住している場合は、電話等で連絡を取り、(家族の)意向を把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も参加する日々の申し送りやミーティング、月例の職場研修会等にて職員は率直な意見・提案を述べる機会があり、またむしろ管理者の方から食材や福祉用具、オムツ等の注文、業者の選択等意見を求めて相談している。	日常生活については、連絡ノートや気づきノートに記載するほか、日々のミーティングや月例の会議等を通じて、職員の意見、提案等を取り上げており、その実現化を図っている。特に入浴設備のリフォームの際には、職員の提案により、利用者の安心と安全を最優先に行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格・勤続年数に応じた手当支給・昇給等就業規則や給与規定に沿った労務管理に努め、個々の勤務状況の把握や希望休日の受付等環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験・力量に応じて実践者研修申込、資格取得に向けた研修等参加への休日取得の優先配慮また無資格者に対しては受講料負担で初任者研修を受講してもらい、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	被災した市内施設からの避難者受入れ、その後の移管等の経緯から利用者・職員の交流や連携がなされている。さらに各種研修参加から同業者、多職種間交流も介して資質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の自宅であったり病院や施設での様子を伺いに複数回、また実地に赴く職員も複数名訪問のうえ要望等に耳を傾け、チームケアの安心感を事前に創出するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階でサービス内容をできるだけ分かり易く説明し、見学・面会も重ねて頂いており、また家庭的な雰囲気から家族が相談しやすい環境を醸成するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入後も前任担当のケアマネや入居前の利用サービス事業所等と情報交換に努め、現行サービスの是非やニーズの検討を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり出来ることやその人らしい個性を發揮して頂き、共同生活の時間の経過も味方にして、互いに理解しあい支えあえるよう支援している。対峙する関係とならないようユニフォームは作っていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は、居室でゆっくり過ぎて頂いたり、日頃の連絡・相談を介して共に支援方法を考え、外出や通院の支援も協働できる関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会者も歓迎して出来るだけ来所頂けるよう勧め、馴染みの理美容店利用や外出の折々にドライブがてら思い出の場所をめぐる等努めている。	利用者の自宅の近所の方の来訪を働きかけるほか、市主催の敬老会などの行事に参加している。また、季節ごとの花見や紅葉などの散策や、以前出かけた海岸へのドライブを行っている。理容は、家族の了承を得て月1回出張理髪を行なうほか、美容は、利用者の馴染みの店に出かけている。お寺参りへの対応もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	迷惑行為が多い利用者も分け隔てなく、利用者同士がもめてしまうことも恐れず、互いに理解や認め合える雰囲気の醸成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所からの震災避難利用者とは、復旧後も交流を継続、また移管利用者については、環境の変化を少なくするよう情報提供惜しまず事業所間協力している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事や髪染め等美容の希望をきいたり、花木の手入れや日頃の茶碗洗い、お膳・テーブル拭きやモップがけ等の掃除、ゴミ出し等それぞれにしたいと望まれる仕事をして頂いたりして。	日々の生活の中で、利用者の意向を把握し、食事の希望献立や、後片付け、植木鉢への水やり、ミニトマト、イチゴの栽培なども行っている。更に、事業所のモップ掛け、ゴミ出しなど、利用者の意向に沿い、事業所の一員としての役割を果たしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報にとらわれず、日々継続して普段の会話から情報収集するほか、家族の面会を通じてこれまでの生活の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフノート等も活用しながら、日々の変化の情報を共有し、食事メニューや福祉用具活用等にも細やかな対応を心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体カンファレンスや日常のケア、家族との連絡・相談及び担当者会議やモニタリングを基に介護計画を作成している。また利用者の状態に合わせて職員の勤務シフトも臨機に対応している。	全体のカンファレンスや各業務の担当者による会議での提案を受け、看護師、主任の意見等を踏まえ、管理者(ケアマネジャー)が介護計画を作成している。特に、バイタルチェックを提供し、投薬など医師の指示を受けるほか、家族の意向を受けて、計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務の段取りや工夫、職員の努力によってスタッフみんながPC入力する日々の記録や毎日のミーティング等から情報を管理、共有してケアの改善を目指している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の小規模多機能型と連携した多様な、例えばベッドでは転落危惧される入居者の小規模用布団敷き畳部屋利用等ニーズに対応して柔軟な支援に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からのかかりつけ医師を変更することなく必要があれば往診頂いたりし、また家族以外のご近所付き合いの方々にも来所面会頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス導入以前からのかかりつけ医とのつながりをそのまま尊重し、またかかりつけ以外の医療機関についても本人希望や症状にあわせて家族連絡・調整のうえ受診適っている。	利用者のうちかかりつけ医5名、協力医4名であるが、利用者の家族の同意を得て、対応している。受診は、原則家族同伴であるが、家族の依頼により、職員が同行する場合もある。皮膚科、眼科、歯科などの専門医については、家族と相談して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職と共に日々の利用者ケアに当たって情報共有し、また通院介助も介して主治医、薬局等関係医療機関との連携も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の見舞いのほか医師、看護師やMSW等と面談・相談しており、併設小規模業務における日頃の入・退院者の利用調整・情報交換等からも連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	近い将来の重度化が想定される方々の主治医先等医療機関と相談しながら、本人・家族への説明等また職場内・外における重度化、終末期及び看取り等についてスタッフ研修を図り、布石としている。	重度化した場合の対応については、入居時に家族に説明しているほか、新入職員については、その都度、研修を行っている。緊急時の連絡体制についても、徹底を図っている。事業所内での看取り経験は無いが、終末期については、家族の意向を確認し、看護師や主治医の指示により対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な消防避難訓練のほか、昨年度は釜石消防署での見学・体験研修を開催、また職場における非常緊急時の対応等研修会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣施設との連携・協力関係を築いており、また消防出張所が向かい隣でもあり、施設現況の理解を得て職員一同分かり易い指導を頂いている。	防火訓練については、近接する消防署の指導を得て、署員立会いのもと、夜間想定訓練など年2回実施している。震災、河川の氾濫対応についても、ハザードマップの作成に参画し、市と町内会との連携を図り、万全を期すこととしている。食材や防災グッズの保管、整備をしているほか、警備会社による保守管理も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「笑顔と思いやり」で接遇し、認知症状によるその人の世界、言動を理解するように努め、矢面に否定することをせず、人格の尊重に心がけている。	利用者一人ひとりの個性を大切にし、理念に基づき、介護サービスを提供している。職員の明るい語りかけと優しい対応は、利用者の生き生きとした表情と仕草に現れており、利用者本位の対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を話しやすい雰囲気作りに努め、行事等への参加、着衣選び、食べたいメニューや外出先等自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な強要となることなく、その日の体調や気持ちの状況に合わせて入浴機会や食事時間・場所、刻み具合等柔軟に対応し、その人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や理美容、化粧品の好み、男性であれば髭剃りの仕方等その人らしく出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかゆ・刻み・トロミ対応や箸かスプーンか、かかる時間も本人のその時々ペースにあわせ、職員も一緒に食事をとり、後片付けも出来る範囲で利用者と共にしている。	食事のメニューは、調理師の免許を持っている職員を中心に作っている。また、職員は釜石市が実施している介護施設職員向けの調理研修会を受講する機会を貰っている。旬のものを活用し、バラエティに富んだメニューとなっている。季節によっては、ベランダで秋刀魚を焼いて食べたり、楽しみをもって「食」を体感している。このほか、外食の機会や行事食を提供し、喜ばれている。食事の後片付けを日課としている利用者は、手伝いを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が順次に栄養・調理研修に参加し、健康管理を基として一人ひとりの状態に応じた食事、また効率よく水分補給できるよう好みに応じた飲み物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医院の往診あり、義歯等に不都合が生じた際はすぐ対応して頂いている。また食後の口腔ケアを習慣化しており、口腔内の清潔に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄チェック表を基に必要な方へは時間毎のトイレ誘導、また個別の尿・便意サインを見逃さないようにしてトイレでの排泄支援をすすめている。	日々の生活の中で、一人ひとりの排泄パターンを記録・把握し、対応している。失敗した方については、それとなく誘導し、入浴などで対処している。利用者それぞれの状況に応じて、自分で上げ下げ出来る紙・布パンツを使用し、自立支援を目指している。夜間室内トイレ使用は1名で、状況を見ながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩、活動を通して離床・運動機会を多くし、一人ひとりの便秘解消の経験・工夫も尊重して食べ物や飲み物も自主的に摂って頂けるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に消極的な方が意外に多く、個別に工夫して誘い、また入浴予定にとられず本人の気の向いた時やチャンスを逃さず、排泄等の汚染時に臨機に入浴対応している。	入浴は、原則週2回としているが、希望により3回の場合もある。時間は午前10時から午後3時ごろまでである。小規模多機能事業所の大浴場の希望もあり、3名が利用している。あまり入浴したがらない方が多く、声掛けや雰囲気工夫し、清潔保持に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	震災時に相部屋等に慣れたりして、居室よりホールで寝た方が安心される方もいて、その人それぞれの落ち着く場所があり、尊重して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬種をファイル管理し、看護職主体に皆で把握、またかかりつけ薬局の日頃の配達も適い、情報交換のうえ主治医の診断に資する服薬支援・確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗い物等日常で一人ひとりに合せた役割を担って頂き、また日頃塗り絵、園芸プランターの手入れ等趣味活動にも楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人・家族や地域の要望に沿って、日常の散歩や時節の花見、紅葉狩りや盆踊り等のほか震災後の復興見物にドライブに出かけたりしている。	日常の散歩は、近くの河川の堤防や、小学校の桜並木、住宅地公園などで行っている。更に、季節ごとのドライブに加え、通院の際の買い物、小規模多機能事業所の利用者送迎車への同乗など、利用者の意向に沿って、柔軟に外出対応をしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 スマートホーム・パティオ(グループホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の金庫と現金管理表をもとに小口で出納管理し、毎月家族報告しているが、財布を持って買物に出かける方、好みを聴いて買物代行する方それぞれに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族等相手の意向を踏まえながら本人希望に合わせていつでも通話できるようにしている。手紙やはがきがたまに届くときもあり、読み聞かせ等の援助をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	派手をさけて自然で落ち着く雰囲気を心がけているが、入居者の作った絵等を壁に飾ったり、節句ごと季節感を出す飾付けをしたりしている。	南向きの明るい建物で、広々とした食堂と畳の小上がり、個室が機能的に配置され、クリーム色を基調とした柔らかい雰囲気の生活環境となっている。暖房は、1階の小規模多機能事業所の床暖房により2階への吹き抜けにより、グループホームの温度は確保されている。季節を感じる手づくりの作品が掲示され、居心地のよい生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、テーブルについて皆でゲーム等するもいしソファでテレビを観るのもよく、また小上がりの畳でおしゃべりや昼寝してもいいような造りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室扉はのぞき窓なく個室として閉ざされる。置いて不都合ないものは持ち込み自由で、使い慣れた時計等持ち込まれ、またアンテナ線を全室に引いてあるのでテレビも持ち込める。	居室は、可動式のベッドと箆笥が整備され、利用者の希望により、布団、チェスト、写真などが持ち込まれている。各部屋にナースコールが配置されている。車イス使用者2名の方には、センサーマットを設置し、夜間等の対応に万全を期している。ベッドは備え付けだが、寝具類は持ち込みをして頂いている。就寝のスタイルは、希望に応じ、ベッドではなく畳に布団を敷いて休まれる方もいる。エアコンで温度調節がなされ、快適な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	併設小規模多機能との交流多く、エレベーター設置してあるが階段を運動兼ての利用が多く、波型手すりが有効活用されて安全を創出している。		